

# 平成6年度 三翠化学会総会報告

## 三翠化学

(題字は稲川先生)

第41号 発行  
平成6年10月31日  
三翠化学会  
津市上浜町1515  
三重大学農芸化学コース内  
電話/津(0592)32-1211  
振替/名古屋9-5934  
印刷/株式会社あるむ  
TEL(052)332-0861 大8 長谷川正一



### 嶋田 協先生退官記念祝賀懇親会

平成六年度本会総会は五月二十八日JR名古屋駅近くのホテルサンルート名古屋において、応用微生物学研究室を今春定年退官された嶋田協先生の定年退官祝賀会を兼ねて開催されました。当日の参加者は、恩師としての北岸確三先生、松嶋欽一先生、熊澤善三郎先生の諸先生をはじめとして、嶋田先生ご関係の企業の方などの学外者を含め百六十名余りとなりました。以下に総会経過を簡潔に、また併せて下欄に総会の承認事項について例年通り報告させていただきます。

まず最初に、嶋田協先生退官記念講演会が応用微生物学研究室主催のもと、他大学の先生方や本会を講師として、四演題の最新の応用微生物学分野の話題等について講演発表がなされました。引き続き開催された東海支部総会の後、原田俊夫副会長の司会のもと、今井滋氏(九回卒)を議長として、本総会が開催されました。嶋田協会長の挨拶の後、平成五年度決算、同事業報告、平成六年度予算、同事業計画が承認されました。また、総会では、嶋田先生により、目で見える農芸化学の移り変わり、青木みか名古屋女子大学名誉教授により、寝たきり老人の周辺について、非常に興味深くまた有益な講演をしていただきました。

五月の三翠化学会総会にあわせて、私の退官記念パーティーを催していただき、まことにありがとうございました。また、応用微生物学研究室の記念事業会からは、過大な基金を頂戴しました。皆様方の厚意を大切に、微生物相談所のより良い運営に役立つ所存です。振り返ると、昭和二十三年に上浜キャンパスに入学して以来、約半世紀が夢のように過ぎ去りました。この間、皆様方の暖かい心からなるご支援とご鞭撻を賜り、お蔭様で任務を全うすることができました。本当に心から感謝申し上げます。退官後二ヶ月経ちましたが、当初考えていたノんびリ優雅な生活は、まだ現実のものとはなっておりません。退官するのを待

## 退官祝賀会をありがとう。今はこんな生活ぶりです。

微生物相談所 嶋田 協

調査研究。水曜は太陽学園のバ イオの授業。木曜は農作業・釣 金曜は卓球。土曜はコース。最後の区切りは日曜日の教会の 安息日です。また、月に一度位 は講演があるのでその準備にも 追われています。 今年の夏は、乾燥して猛暑だ ったので、微生物界にも異変が 起ったようです。食物連鎖で動 植物にも影響がありました。犬 の散歩道の池も今は満水で、池 底に生育していた草が腐り、黒 色の水は悪臭を放ち、その上を 十月も半ばだというのに、ギン ヤンマの群れが乱舞していま す。この機会に、自然の偉大な 変化を、ミクロからマクロまで じっくりと観察していきたいと 思っています。その一環として、 食品の変敗をマークしていま ります。

芸科学コース主任の小宮孝志先生 生の祝辞などをいただき、さら には多数の方々からスピーチを していただき、嶋田先生をお祝 いするとともに会員相互の懇親 を深めることができました。 最後に、総会を開催するに当 たりまして、別府会長をはじめ とする東海支部役員の方々に絶 大なご支援をいただきました。 また、総会の準備、運営など に大宮先生をはじめとする応 用微生物学研究室の方々に協 力をいただきました。記して感謝 の意を表します。(古市記)

つていたかのように、母が病に かり、六月に亡くなりました。 近くの病院で毎日看病できたの がせめての慰めです。人の死 に至る経過を克明に観察し、私 自身が「生と死の世界」を考え る貴重な時を持てたのも、母の 最後の教えだったのだと思っ ています。志摩の的矢にキリスト 教で納骨しましたが、墓には 神・佛・キリストの祖先が仲良 く眠り、牧師一人と僧侶と神官 とがお別れの挨拶をしました。 穏和な伊勢の土地柄の「アーム ン・ダブツ」に「カミノリ」を 感しました。母の遺品の整理も 大変でしたが、ホコリだらけの 昔懐かしい品に出会うと、時間 が経つのを忘れました。 たらちねの母の御手なる 微のもの 中村汀女 今の一週間のスケジュール は、月・火曜は微生物相談所の

### 三翠化学会基金平成5年度決算報告

収入の部	
前年度よりの繰越	1,436,630円
普通預金利息	14,352
計	1,450,982
支出の部	
新入生歓迎会補助	30,000円
総会写真費	15,350
こうより補助	30,000
卒業記念品費(1,545×65)	100,425
支部活動費(20,000×4)	80,000
同上送料(570×4)	2,280
計	258,055
差引残高	1,192,927円
基金管理内容	
定額郵便貯金 200,000×5	1,000,000円
普通預金	192,927円

### 三翠化学会平成5年度決算報告

1) 収入の部	予算	決算	(円)
前年度繰越金	895,724	895,724	
会費	10,000,000	1,117,760	
雑収入	5,000	0	
預金利子	5,000	11,206	
計	1,905,724	2,024,690	
2) 支出の部			
会報印刷費	450,000	327,746	(会報39、40号)
郵送通信費	250,000	205,299	(会報発送・会議連絡)
会議費	250,000	125,370	(役員・評議員会)
人件費	75,000	24,000	(会報発送アルバイト)
三翠会連絡協	30,000	30,000	
議会負担金			(名簿・会計管理用)
事務費	850,000	826,266	パソコン及びプリンタ)
予備費	724	16,105	(香典・弔電)
計	1,905,724	1,554,786	
¥2,024,690 - ¥1,554,786 = ¥469,904 (次年度繰越金)			

### 三翠化学会平成6年度予算

1) 収入の部	6年度予算(円)
前年度繰越金	469,904
会費	1,000,000
雑収入	5,000
預金利子	5,000
計	1,479,904
2) 支出の部	6年度予算(円)
会報印刷費	500,000 (会報41、42号)
郵送通信費	400,000 (会報発送・会議連絡)
会議費	250,000 (役員・評議員会)
人件費	100,000 (会報発送アルバイト)
三翠会連絡協	30,000
議会負担金	
事務費	150,000
予備費	49,909
計	1,479,909

### 平成5年度三翠化学会事業報告

- 平成5年 4月30日 農芸化学新入生歓迎会
- 5月7日 第1回役員・評議員会および基金運用委員会
- 5月23日 平成5年度総会・嶋田先生退官記念祝賀懇親会
- 9月17日 第2回役員・評議員会および基金運用委員会
- 10月1日 三翠化学会会報第39号発行
- 平成6年 1月28日 第3回役員・評議員会および基金運用委員会
- 3月25日 卒業記念品贈呈
- 3月30日 三翠化学会会報第40号発行
- 農芸化学機関誌「こうより」補助

### 三翠化学会平成6年度事業計画

- 平成6年 5月13日 農芸化学新入生歓迎会
- 5月20日 第1回役員・評議員会および基金運用委員会
- 5月28日 平成6年度総会・嶋田先生退官記念祝賀懇親会
- 8月 第2回役員・評議員会および基金運用委員会
- 9月 三翠化学会会報第41号発行
- 平成7年 1月 第3回役員・評議員会および基金運用委員会
- 3月 卒業記念品贈呈
- 3月 三翠化学会会報第42号発行
- 農芸化学機関誌「こうより」補助

# 三翠学園 の スナップ

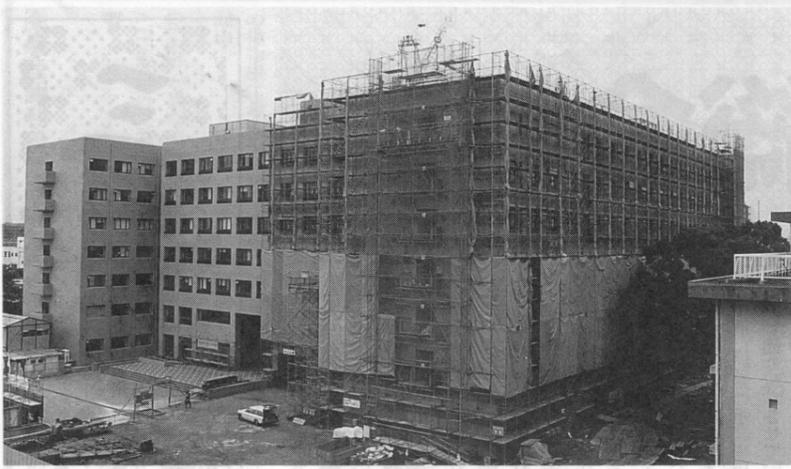
近況



平成6年10月14日 撮影・解説/田口 寛

## 生物資源学部新館

（教育学部屋上から17mm超広角レンズで撮影）  
 一期工事分（この写真の右半分）の工事は、目下進行中で、来年の五月末に竣工の見通しです。その後、教室（講義室）は使えます。しかし、研究室の引越は、夏休みに行う予定であり、七月中に旧館から新館に荷物を移し、八月中旬に新館での整備を済ませ、九月以降に新たな新しい研究体制が整うものと思われまふ。我が農芸化学コースの各分野は、新館の七階（最



生物資源学部新館

上階）と六階に入ります。七階には、北から南へ順に「応用微生物学」、「生物化学」、「食品化学」が、六階には同じく「農産物利用学」、「生理活性化学」、「栄養化学」、「土壌学・植物栄養学」がそれぞれ入ることになっております。

なお、昭和四十年以来ずっと使ってきた一号館は、二号館と共に、荷物の搬出が完了する七月の末に八月月上旬には、電気、ガスが止められ、ロックアウトされて、立ち入ることができなくなるそうです。それまでに、思い出さ各研究室の最後の姿を見に、ぜひお越し下さい。取り壊しの予算が付き次第（二、三年後）、旧館は壊されて、完全に消滅してしまいます。その後、その跡地は、全学共通の緑地帯（憩いの広場）にする計画が立てられております。

## 講堂と機器分析センター

人文学部の南側に、「講堂」（写真左側）と「機器分析センター」（写真右側）が、目下建築中です。完成は、平成七年一月末の予定であり、今度の卒業式は、完成直後の新講堂で挙行されます。講堂の完成予想図もお見せします。なかなか立派な



講堂（左）と機器分析センター

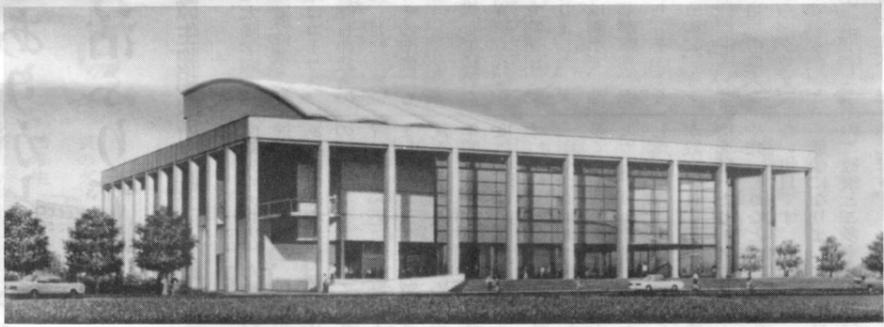
## 遺伝子実験施設と地域共同研究センター

この講堂の規模は、二階建、延面積四〇八四㎡、大ホール一六五〇席、小ホール三〇〇席で、その愛称は「三翠ホール」と決まりました。機器分析センターは、三階建、延面積一〇〇〇㎡の規模のもので、大型の各種分析装置が設置されます。

両施設が一つにまとまった建物で、平成五年一月に竣工したものです。写真の左側が「遺伝子実験施設」（延面積一五〇〇㎡）、右側が「地域共同研究センター」（延面積二六七〇㎡）で、中央図書館の南側（現在建築中の機器分析センターの西側）にあります。「地域共同研究センター」は、大学と地域の皆様との共同研究の場です。今後大いに利用される予定です。



遺伝子実験施設と地域共同研究センター



講堂の完成予定図

## 恩師の近況 熊澤善三郎先生

三翠化学会の皆さん、お変わりありませんか。定年で退官してから、はや四年以上、この間日々を悠々と過しています。それでも週に一日は三重大学一般教育で有機化学を教え居り、他の一日は志那郡野町の製油会社（ナタネ油、大豆レシチン等）で技術顧問をしています。油化学は不馴れですが、結構未開発の面が残されているので新しい特許をいくつか出すことができ

化学の仕事もさることながら、体を使うことが楽しくなっています。週に二日は近くの水泳クラブに通っていますが、ここでは会員の遊泳距離が積算されて、その最長記録保持者がわが三翠化学会の今西（農製）さん、今井（大9）の両氏であることは嬉しい限りです。一方冬にはスキーをやり始めました。昔学生時代にはよく行った

ですが、その頃はリフトなるものは皆無で、ゲレンデを苦労して登っていたのですが今はリフトを使って何回でも好きなだけ滑れるのとスキー用具が改良されたのとで飛躍的に楽に滑れるようになりました。パラレル程度は何とかこなせるようになり、そうなるとう用具も全て新調するとうはめになつてしまいました。誰かが同好の士が居らっしゃれば御一緒させて頂きたいものです。足腰を鍛えるために、早朝、四〜五kmを歩いています。ゴルフコースへ出ても、腕の方は兎も角、足だけは健在です。志登茂川の堤防を歩くことが多いのですが、最近では江戸橋

駅の西、近江絹糸の奥が開発されて県の総合文化センターがオープンしましたので、この辺りも良い散歩道となりました。同センターは名古屋の芸術文化センターに比べると建物の高さは低いのですが面積が広く、ゆつたりとしています。これは地方都市の利点でしょう。これら落しの旧レニングラードフィルはよい音を聴かせてくれました。年内にも、N響、新日本フィル、歌舞伎公演等が予定されていて、どうやら小遣いが余分に要ることになりそうです。

以上、近況の一端でした。皆さんもお元気で。

## サツポロビール(株)

西田 勇

(平成六年三月院修了)

みなさんはビール会社と言えば毎日ビールが飲めると思っている方も多いと思いますが、実はその通りです。しかし、単に量を飲めば良いのではなく、毎日のビールの出来栄を確認するため五感を働かせながら毎日試飲するのです。そのため試飲時間は、味覚、嗅覚の敏感な時間帯である昼食前に行われま

す。ビールの特徴付けをする時に、一番重要なポイントは「香り」にあります。しかし、私がビールの試飲で一番難しいと感じる所は、炭酸ガスによって味や香りが分散しやすい点にあります。私は、本格的に試飲を始めてまだ四ヶ月しか経過していませんので、香りに関するコメントはまだ分かりません。試飲経験の浅い人、私のような試飲ビナー（ビナーは、試飲の際に他のパネラーの講評を聞いて自分の感じる香りのイメージを抱くことが必要なのです。このような試

飲を繰り返すことで一人前のパネラーに成長していくそうです。私は、毎日の試飲のおかげでビールのみならず、日常のあらゆる物の匂いに敏感になってきました。すでに職業病に罹ってしまったようです。

さて、入社して半年余りが過ぎ懐しの学生生活を振り返りますと、実に様々な環境の変化がありました。まず当然の事ながら、前夜どんなにハメを外して騒いだとしても、翌朝には瞼尻合わせをしなくてはなりません。しかも、一日の仕事効率

的にこなすには午前中に好タッシュをかける必要があるとなります。そのため必要なのは、社会人としても自覚と時間を有効に使うことだと思います。以前に、ある友人に「学生時代の自由時間の豊富さは本当に大事だよ。」と言われた事が今、身に染みて分かります。学生の皆さん、自由時間は、体力の許す限り有効に使って下さい。最後に、これから就職、進学を考えている諸君へ私の経験に基づいて一言、「何事も出足が肝心です。」

# 社会人一年生

## 村上技研(株)

河合尚利

(生物資源三回卒)

四年間の津での学生生活を無事終了することができました。ありがとうございました。四年生の時は応用微生物学研究室に配属させていただきました。セルラーゼに関する卒論研究を行いました。研究室では存分に酒を飲ませていただいたり、それまで触れたことのないいろ

な設備の中で実験をさせていたことに感謝しております。卒業いたしました。四月から愛知県海部郡にありまして村上技研という会社に入社いたしました。会社の主な業務は建設現場から排出される汚泥の中間処理です。

私の肩書は研究員でありまして、現在会社の顧問であります。名城大学の衛生工学を専門とする先生のもと、プラントにおけるリサイクル効率を上げること

（汚泥中の砂分と粘土分をいかに分離するか、など）や水処理の実験を大学のゼミ生の協力を得ながら行っております。

入社しまして最初の仕事は静岡の井川という山奥の土木現場から排出される高PHの濁水の処理でした。現場の近くに川が流れており、下流には鮎がいます。そうなので水処理をしなければならぬという事でした。現場にミニプラントをつくり、濁水に凝集剤を入れ濁質を沈澱させ、中和処理後ろ過し放流する

というものです。会社から現場まで車で四時間ばかり、静岡市からも三〇分近く山の一本道を通らなくてはなりません。車の運転は初心者だったもので、山道でタンブと対向したときは泣きそうになりました。なにせ道路の横は崖で、そのずつと下に溪流が流れていました。最初の頃は緊張しっぱなしでしたが、何回か往復するうちに慣れてきました。車の運転も多少は上達しました。普段は現場のそばにある温泉宿に泊



